

平成28年度 自己評価書及び学校関係者評価

札幌市立三里塚小学校

1. 28年度の重点目標

笑顔かがやく三里塚 ～全校の憧れ、6年生～

2. 28年度の経営方針

①安心・安全な子どもの居場所としての学校の創造

②確かに学ぶ力を育てる学校の創造

③豊かな心を育てる学校の創造

④健やかな身体を育てる学校の創造

⑤家庭・地域と共に育てる学校の創造

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

方針・経営	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
① 安心・安全	子ども理解の取組の向上	B	・日常的に、児童をよく観察したり対話したりしながら、児童理解に一層努めていく。併せて保護者とも連絡を密にしながら、家庭と連携して児童の理解を図っていく。 ・職員間の情報共有の機会をより大切にし、全職員で子どもの理解を図っていく。 ・現在取り組んでいる研究とも関連付けながら、「目指す子どもの姿」について共通理解を深め、授業改善に努めていく。	A	A
	校内外の安全対策や児童の危機管理能力の向上	B	・今年度の避難訓練からは、真剣に参加する児童の姿が見られた。取組の継続を大切にしながら、子どもが「自らの命を守る」心情と態度を養っていく。 ・不審者対応の避難訓練について、警察署への協力を得ながら、新たな取組も実施する。	A	B
学校関係者評価者による意見		・不審者の侵入への対策の点で言えば、日中の玄関の施錠について、一層の徹底が必要であると感じる。オートロックのドアの施錠だけでなく、児童玄関の施錠についても、日常的に確認が必要である。 ・子どもの安全を考え、下校時に時間帯がずれて、単独で帰るようなことのないよう、声掛けが必要である。			
② 確かな学び	伝え合う力の育成	B	・全員授業による授業研究、グループ討議を柱とした事前、事後検討会等、現研究での取組が効果を上げてきている。「授業づくり」と「学級づくり」の両輪で、一層、子どもにとっても職員にとっても意義のある研究を進めていく。29年度は、5か年計画の中間として、限定会員による公開授業研を実施する予定である。	A	A
	「うち学」の取組	B	・各学年ごとの「うち学」の基本内容を定め、今年度から学校全体で取り組んだ。取組の形式や内容を検証した上で、取組を継続し、「うち学」の定着を図っていく。	A	A
	学力向上の取組	B	・学力の向上のベースとなるべき「学びのスタイル」の定着については、学年・学級でまだ取組にばらつきがあったので、次年度は職員間でさらに確認しながら定着を目指す。 ・「うち学」の取組だけでなく、日常の授業の改善と教員のスキルアップを図りながら、学校と家庭と連携して学力向上を目指していく。 ・学力テストの分析等、学力の現状を知る資料を一層活用し、日常の指導改善に生かしていく。 ・学力向上への取組の一環として読書活動の推進にも取り組んできた。今後、寄託図書の一層の活用や各階の学校文庫の図書の入替などで、子どもたちの読書活動をより活発にしていく。	A	B
学校関係者評価者による意見		・今の時代は、子どもがいろいろなことを選択できる時代である。その中で読書が苦手な子にも、本を読むことのよさを理解させたり、面白さを実感させたりできるような働き掛けを工夫することができるとよい。			
③ 豊かな心	生活のルールやマナーの向上	B	・もっと子どもの意識を変える取組が必要である。大人の見本として教員が率先したり、家庭での挨拶の励行も呼び掛けたりしながら、連携して子どもの意識の向上を図っていく。 ・すっきりめあての取組では「挨拶」「廊下歩行」を二本柱にして、自分たちの成長や変化を実感できる取組としていく。	A	A
	相手の思いや気持ち、思いやりの気持ちの醸成	B	・言葉遣いや思いやりの気持ちを、学校全体の取組に加え、年間を通して意識させていく。 ・日常の学級での指導だけでなく、シニアスクールとの交流やイチイタイムなど、異年齢、異学年との交流の機会を大切に、相手意識を高め、相手の気持ちを推し量る、相手の立場になって行動するなどを、実際の活動を通じて経験し学んでいく。	A	A
	社会性を育む縦割り活動の取組	B	・異学年での交流や集団遊び、みどりの庭での栽培活動などを通して、自分の年齢にあった活動しながら集団に寄与すること、お世話をしたりされたりすることから、相手のことを考えることなどを、経験を通して学んでいけるよう、現在の取組を大切にしていく。	A	A
学校関係者評価者による意見		・校内外で、子どもの思いやりある行動を目にする機会がある。子どもたちに、「相手の思いやる気持ち」が確かに育っていると思うので、今の取組を大切にしていってほしいと考える。 ・難しい時代ではあるが、先生方には、子どもにしっかり向き合って「子どものために」なるよう指導にあたってほしい。			
④ 健やかな身体	体力向上をめざす校内環境の整備	B	・遊びの日常化、運動の多様化を図るため、グラウンドの活用の仕方を工夫した。（ドッジボールコートの設置、ミニサッカーゴールの常設など） また、スポーツテストの種目の一部を体育の準備運動に取り入れたりするなど、継続的な取組も試みた。これらの取組を年間を通して継続することで、次年度も子どもの体力の向上の推移を見ていく。	A	A
学校関係者評価者による意見		・今の取組を大事に、継続して行ってほしい。			
⑤ 地域・保護者との連携	学校教育情報の発信	B	・学校便りなどに加え、HPの更新の頻度を上げる、写真などの視覚的情報も活用するなどして、学校での子どもたちの活動の様子が、保護者や地域により分かりやすく、タイムリーに伝わるようにしていく。	A	A
	地域と連携した活動への取組と充実	B	・夏の町内会夏まつりへの協力、秋の街頭啓発への参加、冬の雪像づくり、そして、「地域の花活動」など、いろいろな学年が地域の方々との関わりをもつ機会を増やしてきた。学校はもとより地域と力を合わせて子どもを育てていく意識を高め、今後も、地域の力をお借りしながら、子どもを育てていきたい。 ・親子読書週間については、昨年度から2年目となり、前期後期にそれぞれ行った。家庭での意識が高まった部分もあったが、まだ全校的な取組とはなっていない面もある。学校からの発信をより多くして、学校と家庭で連携した取組とするようにする。	A	A
学校関係者評価者による意見		・地域や保護者とともに考える「ネットモラル教育」について取り上げて行ってほしい。場合によってはPTA活動との連携も考えてはどうか。 ・「うち読」の活動は、取り組んでみてよい活動だと感じた。今後も大切にしていってほしい活動である。 ・集団生活の中で子ども同士で学ぶことがたくさんある。学校でも活動はもとより地域や関係機関と協力して、共に子どもを育てていくことが大切である。			